

## マイクロン・テクノロジー(MU)

### 2022年の半導体市場は前年比9%増と過去最高を予想。最先端の半導体製品を扱う同社の追い風となろう

**フィリップ証券株式会社**
**ナスダック | 半導体 | 業績レビュー**

BLOOMBERG MU:US | REUTERS MU.OQ

- 2022/8期 2Q(12-2月)は、売上高が前年同期比24.8%増、調整後粗利率が同14.8ポイント上昇、調整後純利益が同2.1倍の増収増益。
- SSD製品の販売が好調だったほか、業界最先端の1アルファ・ナノメートルDRAMや、176層NAND製品の大規模なコスト削減が寄与
- 2022年の世界の半導体市場は前年比9%増と過去最高となる見通し。同社が展開する最先端の半導体製品需要に追い風となろう。

#### What is the news?

3月29日発表の2022/8期 2Q(12-2月)は、売上高が前年同期比24.8%増の77.86億USD、Non-GAAPの調整後粗利率が同14.8ポイント上昇の47.8%、調整後純利益が同2.1倍の22.63億USD。記憶装置のSSD製品が好調だったほか、半導体メモリでは最先端の1アルファ・ナノメートルDRAMや、176層NAND(フラッシュメモリ)製品のコスト削減が寄与。

セグメント別の1Qの売上高は以下の通り。①コンピューター・ネットワーク部門は前年同期比31%増の34.61億USD。クラウド関連、クライアント向けDRAMの売上が堅調だった。②モバイル部門は同4%増の18.75億USD。スマートフォン向けに、コントローラーを内蔵したマネージドNANDや、複数の半導体チップをひとつの封入パッケージに入れたMCP(マルチチップパッケージ)製品が好調だった。③ストレージ部門は同38%増の11.71億USD。SSD関連の収益が同80%程度増加する中、特に業界初の176層NANDを採用したSSDの販売が貢献した。④エンベデッド部門は同37%増の12.77億USD。自動車や工業向け需要が堅調に推移した。

#### How do we view this?

2022/8期 3Q(3-5月)の会社計画は売上高が87億USD、調整後粗利率が47-49%、調整後EPSは2.36-2.56USD(2Qは2.14USD)の前四半期比での増収増益を見込む。更に同社は世界の半導体業界における今年のビット数に換算した需要の伸びが、DRAMは10%台、NANDは約30%を予想。

一方、旺盛な需要に対応するための工場新設や研究開発に伴うコストの上昇や、技術者の獲得競争に伴う人件費の上昇のほか、ウクライナ情勢の悪化に伴い、製造工程で使用するネオンガス等の材料調達に懸念される中、同社は原材料コストの上昇を見込む。これに対し、同社は原材料の適切な在庫管理と、調達先の多様化、長期契約の締結等を通じてサプライチェーン問題の回避に努めており、短期的には生産量への影響は無いとみている。また、世界半導体市場統計(WSTS)は2022年の半導体市場が前年比9%増の6,014億ドルと過去最高になるとの見通しを示しており、同社の半導体製品においては、最先端の技術に裏打ちされた価格競争力の強さが、利益率の高さを支えよう。

#### 業績推移

※参考レート 1USD=129.24円

事業年度	2019/8	2020/8	2021/8	2022/8F	2023/8F
売上高(百万USD)	23,406	21,435	27,705	33,740	40,589
当期利益(百万USD)	6,313	2,687	5,861	10,386	14,105
EPS(USD)	5.51	2.37	5.14	9.12	12.55
PER(倍)	12.79	29.73	13.71	7.73	5.62
BPS(USD)	32.44	35.04	39.26	46.59	57.01
PBR(倍)	2.17	2.01	1.79	1.51	1.24
配当(USD)	0.00	0.00	0.00	0.37	0.41
配当利回り(%)	0.00	0.00	0.00	0.53	0.58

(出所: 会社公表資料、Bloombergをもとにフィリップ証券作成、F=予想はBloomberg)

配当予想(USD)	<b>0.37</b>	(予想はBloomberg)
株価(USD)	<b>70.47</b>	2022/5/16

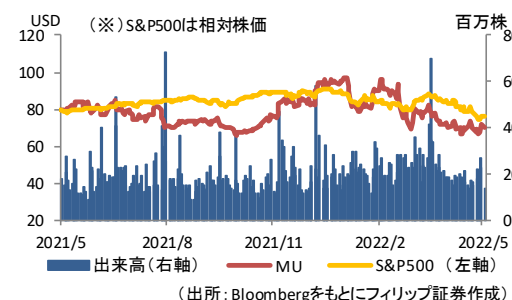
#### 会社概要

1978年創業の半導体業界の世界トップ企業の一角。メモリおよびストレージ製品を世界中で設計、製造、販売する。同社の事業セグメントは、①コンピューター・ネットワーク部門、②モバイル部門、③ストレージ部門、④エンベデッド(組み込み)部門で構成される。また、日本においては広島県内にDRAMの先端工場を持つ。

同社は、揮発性半導体メモリのDRAM、不揮発半導体メモリのNANDフラッシュメモリ・NORフラッシュメモリ・相変化メモリ、超小型・高精細ディスプレイのFLCOSマイクロディスプレイ、複数の半導体チップをひとつの封入パッケージに入れたマルチチップパッケージ製品、映像センサーの相補型金属酸化皮膜半導体(CMOS)イメージセンサーなどの半導体デバイスを製造しており、直販、営業担当者、流通業者、小売業者、Web等を通じて販売を行う。

#### 企業データ(2022/5/17)

ベータ値	1.17
時価総額(百万USD)	78,691
企業価値=EV(百万USD)	74,515
3か月平均売買代金(百万USD)	1,657



#### 主要株主(2022/5)

1. Vanguard Group	8.01
2. BlackRock	7.60
3. CAPITAL GROUP COMPANIES INC	6.87

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成)

#### アナリスト

山口 亮太  
 ryota.yamaguchi@phillip.co.jp  
 +81 3 3666 0707

笹木 和弘  
 kazuhito.sasaki@phillip.co.jp  
 +81 3 3666 6980



【レポートにおける免責・注意事項】

本レポートの発行元: フィリップ証券株式会社 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町4番2号

TEL:03-3666-2101 URL: <http://www.phillip.co.jp/>

本レポートの作成者: 公益社団法人 日本証券アナリスト協会検定会員、国際公認投資アナリスト 笹木和弘  
日本証券アナリスト協会検定会員 山口亮太

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。フィリップ証券は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得る場合があります。当資料に記載されている内容は投資判断の参考として筆者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害についても責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載を禁じます。

<日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則 平14.1.25」に基づく告知事項>

・本レポートの作成者であるアナリストと対象会社との間に重大な利益相反関係はありません。